

“介護が必要になっても出来るだけ長く地域に住み続けたい”
 “誰もが地域でふつうに暮らし続けたい”
 こんな当たり前の願いに応えてゆく特定非営利活動法人です

コロナと虹の会

虹の会 理事長 井上雅博



「小規模多機能型居宅介護事業所 虹の家」の運営は、通い・泊まり・訪問の3つのサービスを一つの事業所で柔軟に組み合わせることができるのが最大のセールスポイントです。昨今「コロナ」感染の危険も多く、現在まで感染予防・その他に全力を傾けての運営を致しております。なにとぞ今後ともご協力とご理解をお願い致します。

虹の家ってどんなふうに利用できるの??

とても複雑な介護保険制度。とりわけ、虹の家のような「小規模多機能型居宅介護」は利用者さん一人ひとりの「これまでの暮らし」に寄り添うことを重視するため、具体的にどんな支援をしているのか、近くにお住まいの方でもわかりにくいことと思います。そこで今回は、虹の家の実際の利用例を、ほんの一部をご紹介します。

※ 2017年虹の会ニュースから再掲載致しました。

毎日、お昼前にお見えになって食事をされたら帰る方

自宅で気ままなひとり暮らしを楽しみながら、毎日お昼前に、虹の家に歩いて来て食事と皆様との会話を楽しんで帰って行きます。婦人会の集まりや、コーラスの練習といつも忙しいようなアクティブシニア。たまにご自宅へ訪問しても、ついつい、おしゃべりが長くなり、雑談だけで終わってしまうことも度々・・・

週に数日、朝から夕方まで過ごされ、食事や入浴をされる方

引き籠りがちになったことを心配したご家族からの相談で利用が始められました。元気が戻ってきたとご家族もご本人も喜ばれています。

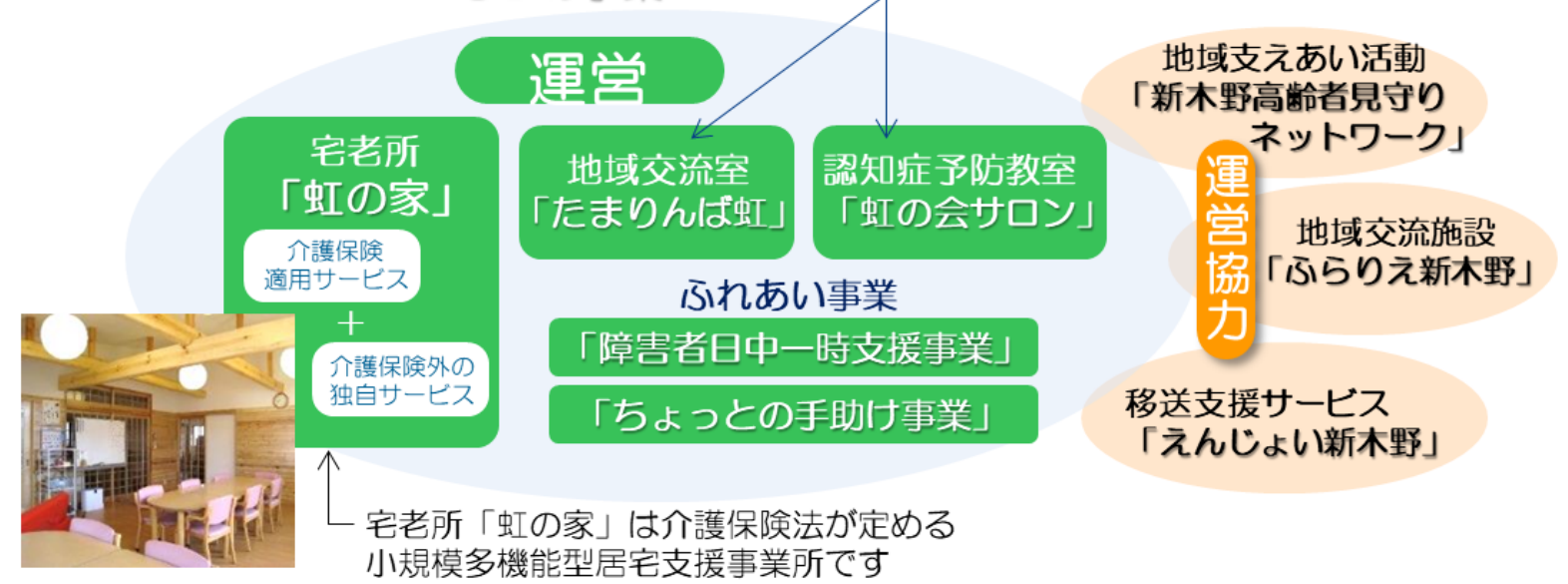
週3日、朝と晩に安否確認のため訪問をする方

独居のお母様を心配したお子様からの相談で始まった訪問支援です。伺うといつも「大丈夫だよ!」「ちゃんとやっているから!!」と元気な声を聞かせてくれます。虹の家の遠足に行くときには、いつもおしゃれな姿を見せてくれます。「いつもおくつろぎのところに邪魔してごめんなさい」(虹の家一同)

週3日の通いと、週3日の訪問で、1週間のサポートを受けている方

「あんまりお世話されてしまうと、一人暮らしができなくなりそうで心配なの」と言って日常生活を一人でこなすがんばり屋です。虹の家も、ご家族と連絡を取りながら、見守り続けています。

特定非営利活動法人「虹の会」が、運営している5つの事業



虹の家ブログ
随時更新中



👉 はこちらから簡単にアクセス

文字も写真も大きくなり見易くなりました! スマホにも対応。

会員募集中

- ◆ 営利目的の活動は一切行ってません
- ◆ この地域で安心して暮らし続けるための支援を行う非営利活動団体です
- ◆ 賛同いただける方は、ぜひ会員登録をお願いします
 正会員 年間 5,000円 [総会での議決権あり]
 賛助会員 年間 2,000円
- ◆ 私たちと一緒に活動していただけるサポーターの方々も募集中です

所在地
 〒270-1114
 千葉県 我孫子市
 新木野3-32-15
 JR成田線「新木駅」北口より徒歩約15分。
 新木団地 道崎公園のそば、赤い屋根が目印です



お問い合わせは
こちらまで!
 ☎ 04-7179-3133
 FAX 04-7179-3130

パソコンから
 我孫子市 虹の会 検索
 Eメール
 niji3215@ia1.itkeeper.ne.jp

訃報

虹の会元理事長高井浩幸さんが4月17日に病にて他界なさいました。
平成16年虹の家理事長就任、平成26年理事長退任、平成27年虹の会退職。地域に根ざした介護事業「虹の家」の土台作りにご夫婦で邁進なさいました。ご冥福をお祈り致します。

「胸が張り裂けそう」

4/17長女史代さんのフェイスブックより

日本時間4月17日午前0時過ぎ、母に看取られつつ、父が永眠しました。21日日本へ一時帰国が決まったのですが、間に合わなかった・・・

小学校の頃は、逆教育熱血パパで、家で宿題をしていると、学校は友達作る所だから外で遊んでこいって怒られて、毎年お正月が来ると早朝叩き起こされて、水をかぶった後、利根川まで走らされた。山が大好きで、休日には色んな山に連れて行かれた。

物心ついてから、そんな父に反発ばかりしていたけれど、これら全部、幼い頃身体の弱かった私と兄を強くしたいと思った想いからだと思った。

不器用な父親だったけど、障害をもつ人やお年寄りの福祉に人生を捧げた、本当に優しい人だった。

自分がレビー小体型認知症になってしまい、手の震え等に苦しんでも、「誰かのために何かしたい。そうじゃなきゃ生きていく意味ない」ってずっと言っていた。

お父さん、最期側についていられなくてゴメンなさい。お父さんが大好きだった囲碁や腹話術や詩吟に触れる度に、これからもずっとお父さん思い出すと思います。

沢山の優しさと思い遣りをくれてありがとうございました。



通常総会が文書にて開催承認されました

虹の会は特定非営利活動（NPO）法人ですので、法令に則り年に一回、通常総会を開いております。今年度の総会は、コロナ感染防止のため正会員の皆様には総会原案を郵送し、去る5月28日に返信文書を理事会にてとりまとめ、各議案とも承認をいただきました。

「虹の家」機能拡張に関わる検討委員会のたちあげ

虹の会・虹の家・その他関係者による検討委員会を設立しました。「小規模多機能型居宅介護事業だけでは限界がある介護サービスを、さらに拡充し提供できないものか？」という利用者さん・介護従事者などからの要望について、検討会をたちあげ、具体的検討に入りました。関心のある方はご連絡ください。



10年の長きにわたり虹の家をご利用いただいた神長タキさんが5月6日に他界なさいました。虹の家のモットー「ゆっくり、一緒に、笑顔で、楽しく」を大変気に入ってくださり「虹の家は私の第二のおうちですよ」と言ってくれました。ご冥福をお祈り致します。

夏の初め、ご家族からいただいたお言葉をご紹介します。

「母の最期」

夏の日差しが増している中、世間ではコロナの不安の中で生活している今日この頃です。

母は、病院に入院をしていましたが、娘ですが面会には我慢をして行きませんでした。退院後は、いつもの母の元気な様子はありませんでした。年齢は97歳です。100歳まで頑張ろうねと家族で励ましていました。身体の状態をみると長く生きることはできないと思い、孫、ひ孫にも会わせましたが反応はなく理解したかわかりませんでした。

虹の家の職員さんも訪問して下さり身体の状態をみていただきオムツ交換、検温、お話しなどをしていただき母も喜んでいたことと思います。

虹の家には10年近くお世話になりました。私から虹の家を勧めたのですが老人ホームには行きたくないと断られました。しかし、昔のイメージではないから体験だけでも思い行かせていただきました。行ってみると母の好きな歌や手作り、縫物、特に母は裁縫が得意で昔私の学芸会の着物を一晩で縫いそれを着ると先生に褒められ母に話すと喜んでいました。私の思い出となってしまいました。

母は、兄家族と暮らしていました。兄嫁には10年近く介護していただき、車椅子になりオムツをあてることになりました。娘である私はオムツ交換は2、3回しかやっていません。毎日兄嫁にやっていたいただきました。生活していると思い通りにいかないと怒ったり大声あげたりしたこともあったことと思います。本当に兄家族には感謝です。有難うございました。

息を引き取るときは虹の家の職員さんが訪問して下さりオムツ交換、検温など終わり家の外に出られた時でした。眠るように静かに亡くなりました。自宅で亡くなり私の理想でした。母は身をもって家族に教えてくれたように思います。

これまで長い間虹の家の皆さんにお世話になりました。感謝申し上げます。

私も、近い将来は虹の家の皆さんにお世話になりたいと思います。

くれぐれも理事長さん職員の皆さんお体にはご留意下さい。有難うございました。

石川美智子



※本文中に記した利用者さんのエピソードについては、虹の家の活動や立場についてご理解いただく目的で、ご本人やご家族の承諾を得られたものだけに限り、掲載させていただきました。